

正副議長続投…議会人事決まる 私は総務常任委、中山間地特別委員に

市議選後初の臨時議会が19日、開かれました。この日の臨時議会は議会人事が中心です。各議員の議席、正副議長、常任委員会や特別委員会の所属、一部事務組合の議員などを決めました。

私の議席は今回から、これまでの最前列の1番から真ん中の列の17番に変わりました。議長席に向かって左端である点は同じです。

議長、副議長は選挙の結果、山岸行則、古澤弘議員が続投することになりました。私たちの議員団では、正副議長選にあたって、各候補と数項目の申し合わせをしました。内容は、①議長（副議長）は会派などの代表としてではなく、議会の代表として発言し、行動する、②議長とし

て重要な政治決断が求められる場合は、双方が十分意見交換を行う、③少数意見も尊重し、議会の民主的な運営に努める、などです。

選挙の投票は次の通りです。議長選については、山岸行則議員に投じた票が47、白票が1でした。副議長選では、大量の白票が出たのでびっくりしました。古澤弘議員に投じた票が35、白票が10、そのほかに小

林克美議員に投じた票が2、橋爪票が1票出ました。私の名前は他会派のどなたかが書いてくださったものです。

す。吉川区出身で公明党所属の杉田勝典（すぎた・かつすけ）議員は厚生常任委員会の副委員長に就任しました。

私の所属常任委員会は予定どおり総務常任委員会となりました。特別委員会は中山間地対策のメンバーになりました。私は、この他、各派代表者会議の正式メンバー、上越地域

消防事務組合議員としての任務を与えていただきました。がんばります。



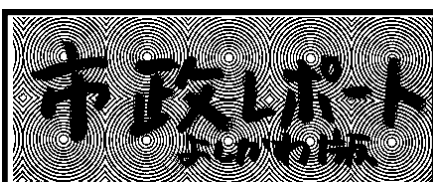
カーブミラー設置などの 予算要求が実現

稲場先の市営住宅前にカーブミラーが設置されました。また、中学校下から山口に至る通学路に防犯灯が増設される見込みとなりました。

これらはいずれも昨年12月の新年度予算要求の際、市長に要望した項目です。市民のみなさんの安全を考えたら、大切な改善措置です。

上越市議会各常任委員会委員

総務常任委員会 12人	厚生常任委員会 12人	建設企業常任委員会 12人	文教経済常任委員会 12人
栗田英明	矢野学	江口修一	佐藤敏
武藤正信	杉田勝典	波多野一夫	田村武男
滝沢一成	平良木哲也	樋口良子	上野公悦
内山米六	嶋井光夫	山崎一勇	中川幹太
笹川栄一	瀬下半治	渡辺隆	林辰雄
塚田隆敏	草間敏幸	松野義之	大島洋一
高波勝也	柳沢周治	田中吉男	宮崎政国
橋爪法一	滝沢逸男	塚田俊幸	小関信夫
吉田侃	山岸行則	岩野虎治	上松和子
飯塚義隆	石平春彦	大島武雄	永島義雄
小林克美	岩崎哲夫	本城文夫	森田貞一
近藤彰治	小林章吾	水澤弘行	古澤弘



NO 1347
2008.5.25

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一
Tel 548-3628 (有線) 4867
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www.hose1.jp/

春よ来い 第九四回 亡くなった後に

ひとり、また一人と親のキョウダイが亡くなっていきます。年の順番は関係なし。前触れもなく急に倒れた人、ずっと入院生活をしていて、ロウソクの火が消えるように亡くなる人、事故で命を落とした人など様々ですが、葬儀などで共通して語られるのは亡くなる少し前の様子と昔の暮らしです。

先日亡くなった伊勢崎の伯母の場合もそうでした。伯母は七人キョウダイの一番上です。九一歳。私の父より一〇歳も離れていたのですが、父の姉というより、祖母のような感じがしました。わが家では祖父・音治郎を子どもの先頭に立って助け、伊勢崎市に嫁いでは、家具店のおかみとして、伯父をしつかりささえてきました。

伯母が入院したのは三か月ほど前のこと。きっかけは、コタツの敷布団が何かにつまづいて転倒し、腰の骨を折ったことでした。一〇センチ以上もある長い鉄製補助具を体に埋め込んでもらったものの、リハビリをきらいました。いとこの話では、病院へ行くと、「もう苦しいのはいやだ。早く逝きたい」ともらしていたと言います。

体を動かさないものだから、伯母の腕や足の筋肉はどんどん落ち、やせ細りました。まったくしゃべれなくなってからのこと。いとこのKさんの連れ合いが伯母を見舞いました。凍み大根のように細くなった足を、ゆつくりとやさしくさすってやっつと、伯母は目をパッチリと開けます。うれしかったのは伯母だけでなく、さすった本人も同じだったでしょう。にこにこしてその時のことを語ってくれました。死の直前でも、人のやさしさは伝わるんですね。

葬儀の時、伯母の遺影を見てびっくりしました。あまりにも祖父・音治郎の顔とそっくりだったからです。ちよつとさみしそうな目、高い鼻、頬骨の張り具合などはまったく同じです。もし、坊主頭になっていれば、誰もが祖父だと言うでしょう。それくらい似ていました。

お斎(とき)の際、挨拶を求められ、わが家の終戦後の暮らしや伯母の顔について話をさせてもらいました。その影響もあつたか、それからは、私の周りのいとこたちやその連れ合いが、終戦前後の暮らしや出来事について次々と語りました。

伊勢崎や高崎のいとこたちが家に疎開に来ていた頃、祖父は尾神岳の南側にあつた国造山などで炭焼きをしていました。家に戻るときには体中が炭で真っ黒です。炭俵を背負いながら帰ってくる祖父の姿は、子ども時代のいとこたちに強い印象を与えます。全身が真っ黒、そして祖父のふんどのしの中では、小さな黒い塊(かたまり)が右へ、左へと揺れている。「黒い塊の揺れ」は激しい労働と疲れの象徴でした。

こんな話も聞きました。伯母が自分の子どもたちに語り継いだ話のなかに、よく白装束の人たちのことが出てきたというのです。わが家は父が生まれる前に三人もの男の子が幼くして亡くなつていますが、ある日、白装束の人たちがやってきました。何をしに来たかは不明です。ただ、それから男の子が育つようになったというのでした。

この話を聞いた時、すぐに浮かんだのは、山伏(やまぶし)です。じつは、わが家は数百年前、山伏寺だったと聞いています。どうも修験者を泊める家だったらしい。名前は「法生坊」。「ほうさいぼう」と読むのか「ほうせいぼう」と読むのかわかりませんが、わが家の屋号は「法生(ほうせい)」です。ひよつとしたら、伯母はわが家の言い伝えについてもつと詳しく知っていたのかも知れません。伯母の死で、改めてわが家のルーツを探りたくなりました。

上越市議会各特別委員会委員

新幹線・交通対策 特別委員会 12人	廃棄物処分場対策 特別委員会 12人	中山間地対策 特別委員会 12人
◎小関信夫	◎小林章吾	◎宮崎政国
○林辰雄	○松野義之	○笹川栄一
平良木哲也	瀬下半治	中川幹太
滝沢一成	内山米六	波多野一夫
大島洋一	柳沢周治	鴨井光夫
草間敏幸	高波勝也	武藤正信
渡辺隆	樋口良子	橋爪法一
塚田俊幸	矢野学	山崎一勇
永島義雄	上松和子	田中吉男
石平春彦	森田貞一	岩野虎治
岩崎哲夫	栗田英明	杉田勝典
水澤弘行	大島武雄	近藤彰治



【写真上】孟宗竹の子を煮ているところ。今年は豊作でした。【写真下】おかいこさん。いずれの写真も旭地区にて。なつかしくてシャッターをきりました。

上越市議会議会運営委員会委員

◎飯塚義隆	○岩崎哲夫	上野公悦	波多野一夫
塚田隆敏	渡辺隆	滝沢逸男	塚田俊幸
杉田勝典	森田貞一	栗田英明	佐藤敏